

Book review ー話題の本ー

公共発注者のための
ベストバリュー
調達読本



公共発注者のための
ベストバリュー調達読本

広瀬宗一 著

B6判 210頁

定価:2,100円(本体+税)

港湾空港建設技術サービスセンター

03-3503-2803

欧米における公共調達の要は「バリューフォーマネー」、すなわち、支出するお金に見合う価値＝サービスの顧客である住民の満足を最小コストで実現すること」であり、経済的、効率的、効果的の3点が重要視される。公共発注者は、調達価値を高めることが求められ、それは単に価格が最も安いだけでは実現できないものである。そして、価格と価格以外の要素を加味した調達プロセス全般を、一般にベストバリュー(調達)と称している。

ベストバリューで重要視される視点として、①新しい技術への挑戦、②提案技術の比較、③専門家の関与、④参加者間での競争があげられる。

このベストバリューの思想は、当然ながら、わが国の総合評価方式にも反映されている。しかしながら、わが国の公共調達システムは、最低価格制度、設計・施工分離、予定価格による上限拘束など、価格を第一とした思想が貫かれている会計法の規定に基づいており、総合評価方式の導入による公共調達の改革が始まってからまだ日が浅い。加えて、総合評価方式は、あくまでベストバリューの手段であってそれ自体が目的ではなく、顧客である住民の満足という最終目標に向けて、広い視野でベストバリュー調達のあり方を模索しなければならない。

本書は、平成20年に出版された「国家戦略としての公共調達論」(相模書房)の続編であり、著者は(財)港湾空港建設技術サービスセンター(SCOPE)理事長兼建設マネジメント研究所長を務める。職員向けの研修教材として書かれていたものを一般向けにまとめ直したもので、日刊建設工業新聞社が編集協力している。15%ルールや競争力のある価格といった、わが国にはない仕組みを持つ米国でのシステムや事例を通して、わが国の公共調達のあるべき姿が、わかりやすく解説されている。発注実務者は必読の書と言えよう。